

メジロ識別マニュアルの修正箇所

(2016.1.8)

| 位置 | 修正前 | 修正後 |
|----------------------------|--|---|
| p.2 3行目 | メジロ科 Zosteropidae のメジロ属には | メジロ科 Zosteropidae には |
| p.6 18行目 | <i>6aponicas</i> | <i>japonicus</i> |
| p.6 23行目 | <i>6aponicas</i> | <i>japonicus</i> |
| p.7 26行目 | 亜種シマメジロより韓国産の亜種メジロの嘴が | 亜種シマメジロは、韓国産の亜種メジロより嘴が |
| p.7 28行目 | 標準偏差 14.8±0.90 (最小値 12.6 – 最大値 17.4 , レンジ 4.80) | 標準偏差 14.8±0.90 (n=90, 最小値 12.6 – 最大 値 17.4 , レンジ 4.80) |
| p.7 32行目 | 標準偏差 17.5±0.57 (最小値 16.0 – 最大値 20.6 , レンジ 4.60) | 標準偏差 17.5±0.57 (n=166, 最小値 16.0 – 最大 値 20.6 , レンジ 4.60) |
| p.7 33行目 | 標準偏差 16.1±0.51 (最小値 15.1 – 最大値 17.1 , レンジ 2.00) | 標準偏差 16.1±0.51 (n=33, 最小値 15.1 – 最大 値 17.1 , レンジ 2.00) |
| p.24 図 2, 図 3, 図 4, 図 5 | 図 2, 図 3, 図 4, 図 5 | 図 2, 図 3, 図 4, 図 5 をすべて差し替え 修正理由：全ての図が「全嘴峰長」となっていたこと、 本文 (P.7) の記載内容とも整合性が取れていなかった ため、全ての図を差し替え。 |

修正後の P.2,6,7,24 については、別添参照。

II メジロ *Zosterops japonicus* の分布と亜種

メジロ科 Zosteropidae には 13 属 98 種あり、そのうち、最も分布が広く、種数の多いメジロ属 *Zosterops* にはメジロ科の約 3/4 にあたる 75 種が認められている。メジロ属は大西洋のアフリカ西部沿岸の島嶼、アフリカ南部、インド、インド洋の島嶼からインドシナ、インドネシア、中国、日本、韓国、台湾、フィリピン、太平洋南西部の島嶼、オーストラリア、ニュージーランドに分布する。小さな島だけに分布する固有種や固有亜種が多い。

メジロ *Zosterops japonicus* は、伊豆諸島、小笠原諸島、南西諸島を含む日本、韓国南部沿岸、済州島、台湾、海南島を含む中国南部、インドシナ北東部にかけて分布し、繁殖する。また、サハリン南東部 (Nechaev 1991) と南千島の国後島 (ネチャエフ・藤巻 1994) からも記録がある。

メジロは北方で繁殖する個体群が南方に渡り越冬することが知られており、北海道と本州北部では主に夏鳥である。また、日本本土の基亜種が伊豆諸島や南西諸島から記録され (日本鳥学会目録編集委員会 2012)、中国本土のメジロの亜種が冬期に海南島で記録されている (Chen 1987)。しかし、日本産のメジロが国外である中国本土や台湾、海南島から記録された例は知られていない。

メジロは日本の国内に 6 亜種、国外に 3 亜種の合計 9 亜種に分けられている。各亜種の分布は、以下の通りである (図 1 メジロ *Zosterops japonicus* の各亜種の分布 参照)。

亜種メジロ *Zosterops japonicus japonicus*

北海道、サハリン南部、南千島、本州 (新潟県佐渡、粟島、島根県隠岐、山口県見島)、四国、九州 (長崎県対馬、壱岐、五島列島、男女群島)、および朝鮮半島南部と沿岸の黒山島、紅島、済州島、巨済島などに留鳥として分布する。冬鳥として屋久島、種子島、伊豆諸島、奄美諸島、沖縄諸島からも記録がある。自然分布でないが、1929 年以来、ハワイ諸島の数島に日本から移入され、西はカウアイ島までの主な島で野生化している (Mees 1957, Long 1981)。

北海道に分布するメジロは、Kuroda (1951) により亜種エゾメジロ *Zosterops japonicus yesoensis* として分けられたことがあり、亜種として認められることもある。また、対馬、壱岐、鬱陵島から朝鮮半島南部、済州島に分布するメジロは亜種イジマメジロ *Zosterops japonicus ijimae* として分けられたことがある (Kuroda 1917)。韓国の鬱陵島のメジロは亜種ウツリヨウメジロ *Zosterops japonicus dageleticus* として分けられたことがある (靱山 1930)。

亜種シチトウメジロ *Zosterops japonicus stejnegeri*

伊豆大島から利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、鳥島までの伊豆諸島に留鳥として分布する。冬鳥として静岡県からも記録がある。

伊豆諸島の大島のメジロは亜種オオシマメジロ *Zosterops japonicus ohshimensis* として分け

大きく、喉と腹中央の黄色は亜種メジロより濃く、明瞭である。嘴は基部が太くて長く、跗蹠および尾がやや長い。成鳥の虹彩は、灰褐色であるが、白味が強い個体がいる。トカラ列島産のメジロは、亜種シマメジロとされることがあるが、嘴がより長く太く、胸と脇はかなり淡色で、亜種シマメジロより亜種シチトウメジロに似る（写真9）。

亜種リュウキュウメジロ *Zosterops japonicus lochoensis* 写真 10

日本産のメジロの亜種の中で最も小さい。胸と脇が灰白色で赤褐色味がなく、亜種ヒメメジロに似るが、やや大きい。額は黄色をほとんど帯びない。上面の緑色には亜種ヒメメジロほど黄色味はない。腹中央が黄色を帯びる個体もある。下嘴先端の黒色部は不明瞭。成鳥の虹彩は灰褐色。

亜種ダイトウメジロ *Zosterops japonicus daitoensis* 写真 11

亜種リュウキュウメジロと、フィリピンメジロの1亜種の亜種キクチフィリピンメジロに類似する。亜種リュウキュウメジロより大きく、喉の黄色は眼の下の白い囲眼羽を縁取る黒線に達する。眼先の上の黄色の斑が大きく顕著で胸と脇、腹は灰白色である。上面の緑色は亜種キクチフィリピンメジロよりやや暗色で、下嘴先端の黒色部は不明瞭である。成鳥の虹彩は亜種リュウキュウメジロより、わずかに赤味がある。地鳴きは、日本産の他の亜種より細い声である。

亜種ヒメメジロ *Zosterops japonicus simplex* 写真 12

亜種リュウキュウメジロに似るが、小さく、嘴と跗蹠は短い。上面の緑色は黄色味が強く、額と眼先の上の黄色が顕著である。下嘴先端の黒色部は大きく明瞭で、虹彩の色は赤色味が強い。喉の黄色部は太く、白い囲眼羽を縁取る眼の下の黒線に達する。

亜種ハイナンメジロ *Zosterops japonicus hainanus* 写真 13

亜種ヒメメジロに類似するが、より小さい。上面はより黄色味が強く、額と喉の黄色もより明瞭で、喉の黄色部は白い囲眼羽を縁取る眼の下の黒線に達する。下嘴先端の黒色部は大きく明瞭で、虹彩の色は赤色味が強い。

別種フィリピンメジロ *Zosterops meyeri*

亜種キクチフィリピンメジロ *Zosterops meyeri batanis* 写真 14

亜種ハイナンメジロに似る。上面の緑色は亜種ヒメメジロより明るく、わずかに黄色味が強い。額と眼先の上の黄色の部分が亜種ヒメメジロと亜種ハイナンメジロよりやや大きく明瞭で、喉の黄色が亜種ヒメメジロより鮮やかである。腹中央は黄色を帯びる。下嘴先端の黒色部は大きく明瞭である。地鳴きは、亜種ダイトウメジロにやや似た細い声である。

別種チョウセンメジロ *Zosterops erythropleurus* 写真 15

上面の緑色は黄色味が強く、脇に明瞭な濃い赤褐色の斑があり、腹は白い。嘴は上嘴下嘴ともに基部が灰色がかかったピンク色を帯び、跗蹠の灰色もピンク色を帯びる。最外初列風切 P9 がメジロ *Zosterops japonicus* より長く、P8 よりわずかに短い。これらの特徴からメジロとの識別は、難しくはない (P8 写真1 参照)。本種もメジロと同様に幼羽から第1回冬羽への換羽は、完全換羽である。本種は雌雄異色で、第1回冬羽以後の雄は雌より脇の赤褐色斑が濃い。

IV 測定値による日本産と外国産のメジロの識別

本州・九州産の亜種メジロ、韓国産の亜種メジロ、亜種シチトウメジロ、亜種イオウトウメジロ、亜種ダイトウメジロ、亜種シマメジロ、および亜種ヒメメジロについて、最大翼長、自然翼長、跗蹠長、露出嘴峰長、全嘴峰長、鼻孔嘴峰長、鼻孔前端嘴高、鼻孔前端嘴幅、全頭長、尾長の10部位の測定値(単位 mm)、および体重(g)を表1に示す。すべて生体の測定値である。測定値は、羽色だけからの亜種の識別が難しいときに参考になるものである。

亜種シマメジロと亜種メジロの識別は、羽色だけからは難しい。しかし、Mann-Whitney の U 検定を行った結果、亜種メジロと亜種シマメジロの各部位の測定値には有意な差が認められた。全頭長は、亜種メジロが平均値±標準偏差 30.4 ± 0.81 (n=140, 最小値 28.5 – 最大値 35.4, レンジ 6.90), 亜種シマメジロが平均値±標準偏差 32.2 ± 0.69 (n=29, 最小値 30.4 – 最大値 33.1, レンジ 2.70) である (U=206.0, $p < 0.0001$, 図2)。

韓国産のメジロは、現在、日本産と同じ亜種メジロに含まれている。しかし Mann-Whitney の U 検定を行った結果、本州・九州産のメジロにくらべ韓国産のメジロの嘴が太くて長い傾向がみられた。露出嘴峰長は、本州・九州産メジロが平均値±標準偏差 11.8 ± 0.71 (n=140, 最小値 9.9 – 最大値 15.1, レンジ 5.20), 韓国産メジロが平均値±標準偏差 13.0 ± 0.83 (n=90, 最小値 11.0 – 最大値 15.1, レンジ 4.10) である (U=179.0, $p < 0.0001$, 図3)。

亜種シマメジロと韓国産亜種メジロの各部位について、Mann-Whitney の U 検定を行った結果、亜種シマメジロは、韓国産の亜種メジロより嘴が太くて長い傾向がみられた。全嘴峰長は、亜種シマメジロが平均値±標準偏差 15.3 ± 0.53 (n=29, 最小値 13.7 – 最大値 16.1, レンジ 2.40), 韓国産亜種メジロが平均値±標準偏差 14.8 ± 0.90 (n=90, 最小値 12.6 – 最大値 17.4, レンジ 4.80) である (U=757.5, $p < 0.001$, 図4)。

日本産の亜種の中で最小の亜種リュウキュウメジロは、羽色もサイズも亜種ヒメメジロに類似するが、Mann-Whitney の U 検定を行った結果、各部位に有意な差が認められた。跗蹠長は、亜種リュウキュウメジロが平均値±標準偏差 17.5 ± 0.57 (n=166, 最小値 16.0 – 最大値 20.6, レンジ 4.60), 亜種ヒメメジロが平均値±標準偏差 16.1 ± 0.51 (n=33, 最小値 15.1 – 最大値 17.1, レンジ 2.00) である (U=153.0, $p < 0.0001$, 図5)。表1の亜種ヒメメジロの測定値には、中国産、台湾産、およびベトナム産の個体が含まれている。

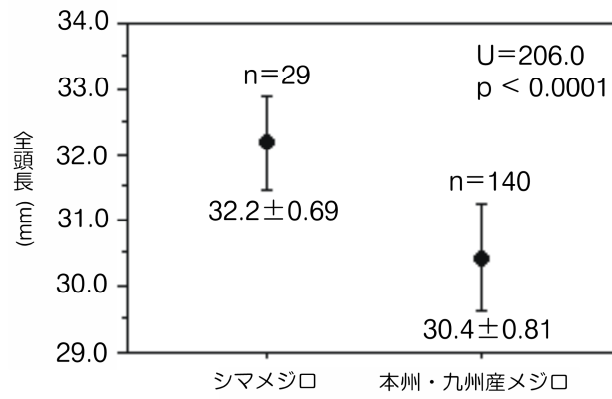


図2 本州・九州産メジロとシマメジロの全頭長の比較

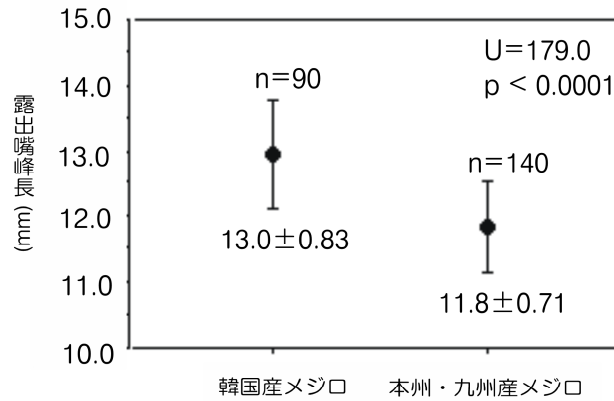


図3 本州・九州産メジロと韓国産メジロの露出峰長の比較

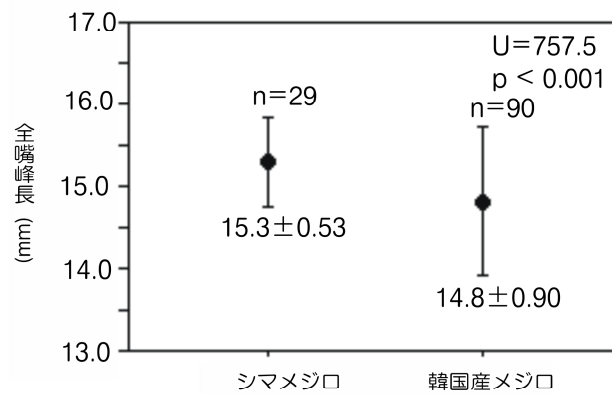


図4 シマメジロと韓国産メジロの全嘴峰長の比較

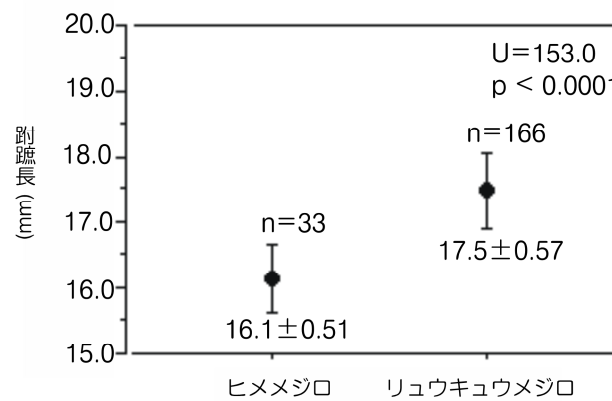


図5 ヒメメジロとリュウキュウメジロの跗蹠長の比較